

「過酷な作業」を改善してみませんか

～下刈作業の機械化を民有林に普及する取組～

上川北部森林管理署 山内 龍輔
梅本 優輝

研究の背景・目的

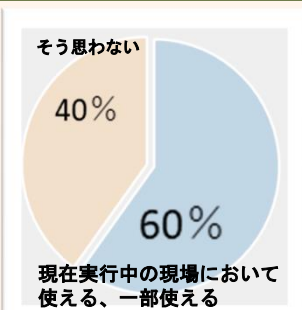
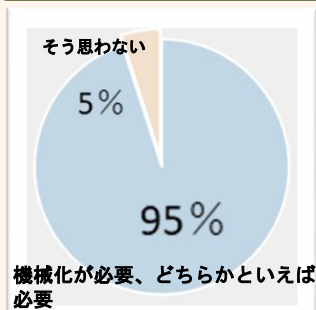
平成27年に将来の森林整備の担い手不足や造林作業の機械化が進んでいないことを背景として、民有地で地拵・下刈の機械化の検討が開始されました。それから9年が経過し、その間の北海道国有林でのチーム内の検討や実証試験等を踏まえて、令和6年度から北海道国有林において事業として機械下刈を導入しました。そこで当署では、民有林への普及に向けて、下川町国有林において遠隔式下刈機械の性能・機動性等を実際に見てもらい、その後、フォローアップ意見交換会を開催し課題解決の取組みを実施しました。

現地検討会

現地検討会では民有林関係者を主体に約150名が参加し、実演及び操作体験を行うとともに、アンケートを実施し、機械化に対する参加者の意見・要望などを聞き取りしました。



下刈作業の機械化についてのアンケート結果



機械化が必要、どちらかといえば必要 95%
現在の現場において使える、一部使える 60%

➡ 下刈作業の機械化については「肯定的」
一方で使用する場合の懸念点として多かったのは
➡ 「伐根・末木枝条の処理」「地拵・植栽仕様」

解消が必要な優先課題

国有林で従事した操作者へのアンケート結果

リモコン式等機械を操作中・作業終了後の体への負担は刈り払い機に比べてどうか	軽減	92%
歩行距離は刈り払い機に比べてリモコン式等機械はどうか	減少①	38%
刈り払い速度は(効率)はどうか	上昇②	46%
リモコン式等機械の操作はどうか	難しい	100%
作業時の安全面や蜂刺さりのリスクはどうか	減少	77%
課題や改善すべき点が解消された場合個人的に使用したいと思いませんか	使用したい	85%
国有林でのリモコン式等機械による下刈り面積拡大の方向性についてどう思いますか	推進③	62%

ポイント①体への負担は軽減される
②操作は簡単
③安全上のメリットがある
④条件が整えば積極的に使用したい

半数程度以下に止まった理由

①機械から離れず同じ距離を歩いている
②常に苗木との間隔を確認している
③適した作業条件の箇所ばかりではない
①操作の慣れ ②苗木周辺の不用幅は規定済 ③適した箇所選定 により解消

【フォローアップ意見交換会】

現地検討会のアンケート結果を踏まえ、機械活用への課題として多く出された「伐根・末木枝条の処理」「地拵・植栽仕様」をメインテーマとして、各機関において進めている課題への対応等について情報提供しながら意見交換を行い、認識を深めるとともに「機械使用時の人件費の考え方」「機種選定の考え方」「機械導入への補助金」等、多くの意見・質問が出され疑問点の解消を図りました。



今後の展開

民有林の事業体・森林組合や自治体の下刈作業の機械化に対する意欲・認識を確認する中で、事業への活用に踏み切れないのは、民有林で適用させる「功程」の設定に至っていないことも理由の一つに挙げられています。

全国の中で条件的には北海道が最も適していると言われており、その先頭に立って北海道国有林が実績を積み上げ、広く情報発信を継続し民有林への普及に繋げていきたいと考えています。

